

must と have to の導入で最初から「ほぼ同じ意味」と教えると、否定形(must not＝禁止／don't have to＝不要)で必ず事故が起きます。この授業案は、地球のルールを何も知らない宇宙人に校則やマナーを教えるという設定で、「これは絶対ダメ(must not)」と「べつにしなくていい(don't have to)」を、教える必然性のある場面から区別させます。宇宙人役は担任でもALTでも、うまくボケるほど盛り上がります。

この教材で解決できる悩み

- ・ must not と don't have to の違いが定期テストまで定着しない
- ・ 助動詞の導入が文法説明だけで終わり、使う場面がない
- ・ 「意味が似ている2つ」を最初にどう区別させるか設計が難しい

教材の概要

項目	内容
対象	中学2年(NEW HORIZON 2 Unit 6)
文法項目	must / must not / have to / don't have to
形式	授業案A4・3ページ＋ルールカード＋宇宙人セリフ台本
所要時間	50分×1コマ
準備物	宇宙人の小道具(触角カチューシャ等があると一気に世界が立つ)

授業の流れ(50分)

導入: 宇宙人、転校してくる(12分)

教師(宇宙人役)が、地球のルールを珍妙に破ってみせます。上履きのまま机に乗る、授業中に立ち歩く、給食を手づかみで食べようとする——生徒が「ダメダメ！」と反応したところで、“Why? Teach me the rules of the Earth!” と英語で助けを求めます。ここで You must not stand on the desk!(禁止)を教師が板書し、生徒の「ダメ」を英語の型に翻訳していきます。

気づき: 4つの箱に仕分ける(10分)

板書を「しなければならない(must / have to)」「してはいけない(must not)」「しなくていい(don't have to)」の3枠で色分けします。ポイントは must not と don't have to を隣に並べて対比すること。「宇宙人に『廊下を走ってはいけない』と『宿題は今日中じゃなくていい』は、どちらも“notがつく”けど意味が正反対だよ」と、事故ポイントを最初に正面から扱います。

展開: ルール講座を作る(20分)

グループで「宇宙人のための地球ルール講座」を作ります。ルールカード(学校・電車・レストランなどの場面)を引き、must / must not / have to / don't have to を最低1つずつ使って4つのルールを英語で書きます。書いたら宇宙人(教師)のところへ「講座」を届けに行き、宇宙人が1つわざと勘違いして実演(“So, I don't have to wear shoes? OK!” と裸足になろうとする)すると、生徒が必死に訂正します。訂正の場面が、実は一番濃い産出練習になっています。

まとめ(8分)

各グループの「一番大事なルール」を1つずつ発表。must not と don't have to を1回ずつ含む講座を作れたグループを称えて終了します。

宇宙人のボケは「危険・不快でない範囲」に限定してください。給食を手づかみ等の衛生ネタは実演せず言葉だけに留め、実演は「上履きで机」程度の安全なものに。盛り上がりすぎて本来の狙い(must not と don't have to の区別)がぼやけないよう、板書の3枠だけは常に黒板に残しておくのが軸を保つコツです。

定着・テストへの接続

この導入の翌時間には、当サイトの『must / have to の使い分け10分小テスト』(書き換え・校則英作文つき)がそのまま定着チェックとして使えます。宇宙人講座で書いたルールは、定期テストの条件英作文(「自校の校則を英語で説明しなさい」)の下書きにもなります。